着物生地で作った伊達男のボウタイ

3

写真／鶴田智明（WPP）
文／モノ・マガジン編集部

いわゆる蝶ネクタイと言われるボウタイ。英語の被服用語で体に巻き付ける布を意味するBowを語源とする。14世紀ローマ兵のスカーフが淵源とされるタイの歴史は古く、ボウタイにも長い歴史の中、多くの種類が存在する。そのボウタイを「古裂」「古布」など日本のビンテージ着物素材で作った通販のみのボウタイ専門店がMASAZIRO（正次郎）だ。上質のシルク素材のクオリティはもちろんのこと、日本の着物生地デザインが現代にも通用することをボウタイを通じて証明してみせた。今回紹介する「辻が花」と「大島紬」は生地自体が希少で高価。しかも、素材に限りがあるため量産ができない。ひとつのデザインで最大10点くらいまで、少ないものでは〝1点モノ〟もある。その素材を京都の職人が丹念に製作。まさに一期一会のボウタイなのだ。現在は日常からボウタイを締める人は少なくなったが、昔の伊達男たちは粋に締めていた。在りし日のシネマスターや偉人などがカッコよくボウタイを締めた姿に憧憬の念を抱いた人も少なくはあるまい。ボウタイはいわば〝知性の表現〟。見た目を磨き、男を磨く。このビンテージシルクのネクタイで、新たな〝知性の表現〟を試してみてはいかがだろうか？

Ohshima-Tumugi（ピンドット）

価格6800円

クラシックな英国風ボウタイだが、実は極上の大島紬でできている。そのためドレープ感に優れ、エレガント。ネイビーやグレー系のスーツにもよく合う。手結びができる人は蝶の形を自在に操り、自分好みのスタイルが楽しめる。

辻が花染ボウタイ

価格9800円

15世紀に出現し、忽然と消えた幻の染「辻が花」。当時のモノは博物館に所蔵されていて、その染色技法は未だ解明されていない。現代の「辻が花」は新たな解釈による絞り染め。商品は堺の商家から出た現代辻が花のヴィンテージ生地で製作。

Ohshima-tumugi（グレーブラウン）

価格7800円

大島紬独特の泥染めという技法で染められたグレーブラウンのボウタイ。スーツはもちろん、タキシードにもマッチングする。手結びする際に上質なシルク特有の衣擦れの音がして、クオリティの高さを感じることができる。

MASAZIROのネクタイはすべて裏に高瀬貝のシェルボタンが３つ付いている。これは、手結びができない人でも好みの長さに合わせて装着できるための工夫。もちろんこれを機に手結びを覚えてみても粋だ。

問MASAZIRO☎070-5040-0147 http://masaziro.com/